



GREEN×EXPO 2027の 取組状況について

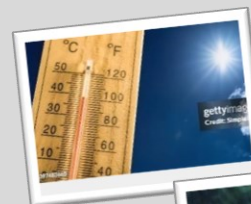
- 国際博覧会は、次世代の課題解決に向けた取組を加速させる重要な契機。
- 花や園芸に留まらず、気候変動や生物多様性などの地球規模の環境課題にも焦点を当てて開催。

プラネタリー・バウンダリー（地球の限界）



気候変動や生物多様性の損失などの地球規模の環境課題が顕在化。

地球が直面する危機がもたらす私たちの暮らしへの影響



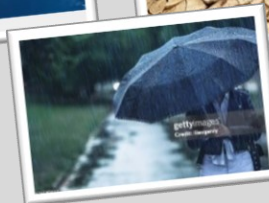
猛暑



水不足



健康被害



豪雨・洪水被害



食料危機

（グリーン エクスポ ニーゼロニーナナ）

GREEN×EXPO 2027

花や緑、農、食など、「自然」や「環境にやさしい」取組と連携し、
市民や企業、地方公共団体等との共創・交流の舞台を創造することで、
あらゆる参加者の共感や学び、歓びを喚起し、
おのずから未来の行動につなげ、
グリーン社会の実現、地方創生を目指す。

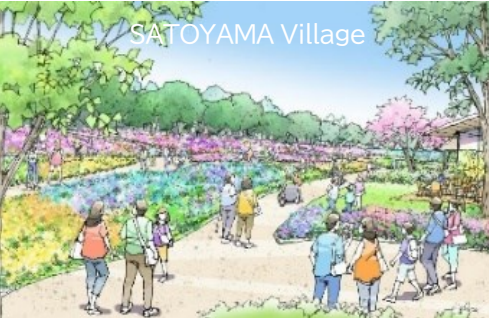
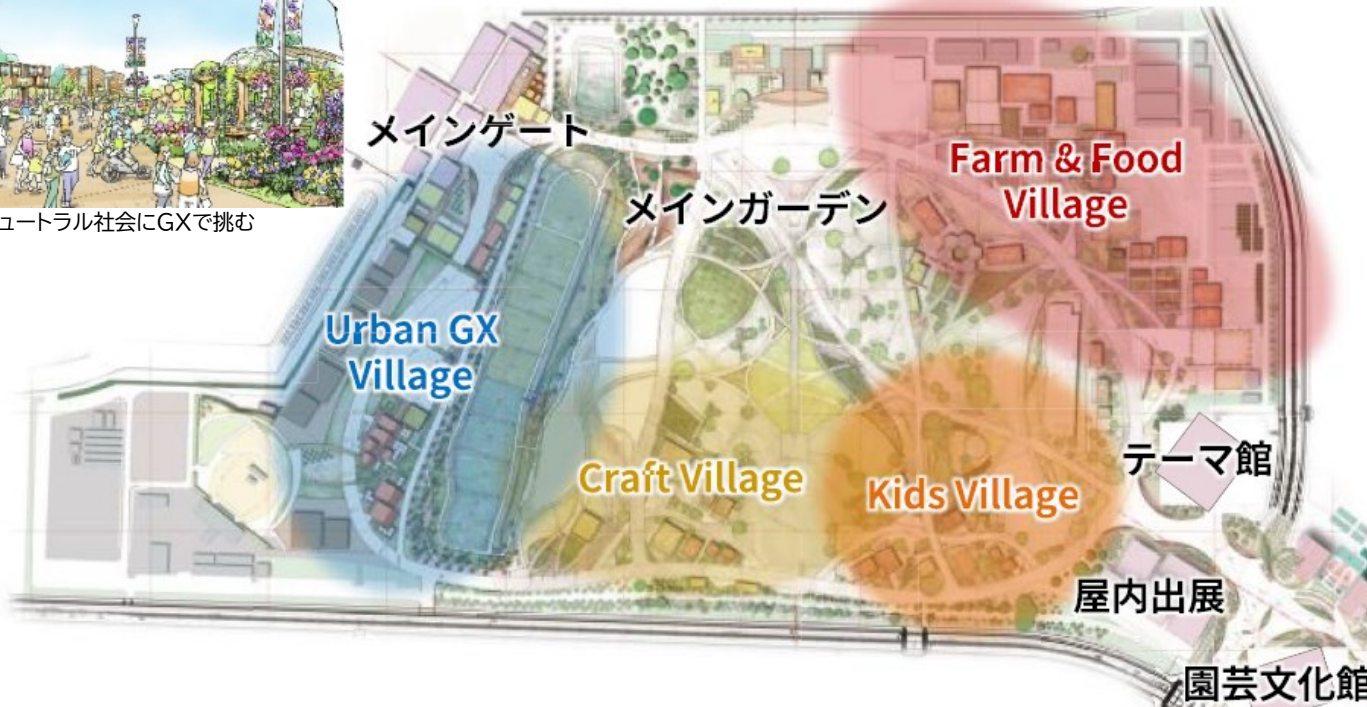
GREEN×EXPO 2027 会場計画図



カーボンニュートラル社会にGXで挑む



「農」と「食」を通じてウェルビーイングを追求する



自然と人、人と人が関わりあい、共に生きる



自然とのつながりの中で育まれた智慧・技術と出会う



これからの地球を生きる子どもたちが自然と世界を学ぶ



政府出展の概要（国交省・農水省）

- GREEN×EXPO 2027では、国交省と農水省が連携して政府出展を実施。有識者による懇談会等を通じて詳細検討中。
- 「日本の自然観を再考し、未来へ進む」というコンセプトの下、日本の自然観に加え、新しい農業技術やグリーンインフラ等に関する屋内・屋外での展示を予定。
- 政府出展は、出展区画として最大の2.5ha。建築面積は約3,700㎡。
- 現在、建築の発注手続き、庭園の実施設計、屋内展示の基本設計を実施中。本年夏以降に、建築及び庭園の工事を開始予定。

■ 平面図（現段階のイメージ）



■ 会場イメージ



政府出展区域北西側からの眺め

- 東西に分棟する木造建築と、日本の庭園の伝統技術等を取り入れた庭、いけばな・盆栽等の実物展示により、日本に受け継がれてきた自然観や、文化・芸術、里山の風景などを表現。
- また、緑の持つ機能や役割を再認識し、地球規模の課題への取組を提案するため、展示を通じて、グリーンインフラや最先端の農業技術等について発信。



屋外展示（庭園）（イメージ）



屋内展示（イメージ）

コンテンツの準備状況

■主催者展示（テーマ館、園芸文化館）

- テーマ館では、地球を支える命の根源である植物の真の姿を表現。陸前高田市の「奇跡の一本松」の根も展示。
- 園芸文化館では、江戸時代を中心とした日本の園芸文化の神髄を表現。
- 令和6年度は、展示に係る実施設計及び運営に係る基本的な要件整理を行った。
- 令和7年度は、展示制作及び運営計画などの運営準備に着手する。



Village出展		テーマ営業出店		花・緑出展	
1,000～3,000㎡／区画 (有料)		1,000㎡／区画 (有料)		【屋外】 (庭園等) 2 5 ㎡／区画 (複数使用可)	【屋内】 (生花・盆栽・庭園等) 2 0 ㎡／区画 (複数使用可)
東急グループ、KTグループ、 NTT東日本、大林組、 三菱グループ、鹿島建設、 大和ハウス、東邦レオ 竹中グループ、住友林業 相鉄HD、清水建設 三光ソフランHD		JAグループ、丸兆、明治グルー プ、山崎製パン		【企業・団体・個人】 あわせて287件が内定 (125件) (175件) 18件が屋外・屋内の両方に出演 ※5件が未公表	
 EXPO 2027 YOKOHAMA JAPAN ● Village出展 ● テーマ営業出店 N JAグループ O 株式会社 丸兆 P 明治グループ Q 山崎製パン 株式会社 A 東急グループ B 株式会社 KTグループ C 東日本電信電話 株式会社 D 株式会社 大林組 E 三菱国際園芸博覧会総合委員会 F 鹿島建設 株式会社 G 大和ハウス工業 株式会社 H 東邦レオ 株式会社 I 竹中グループ J 住友林業 株式会社 K 相鉄ホールディングス 株式会社 L 清水建設 株式会社 M 三光ソフランホールディングス 株式会社		あわせて73の自治体が内定 ※開催都市である神奈川県、横浜市を除く ※予算措置等の理由により、25自治体は未公表		自治体・企業等あわせて360件 ※屋外・屋内の両方にエントリーしている場合は1件とカウント ※未公表分を含む件数	
13件		4件			

海外参加招請の主な取組状況

➤ 国際会議等におけるPRや各国バイ会談等のあらゆる機会を通じ、本博覧会への参加招請活動を継続的に実施。

7月



太平洋・島サミット
(7月16日)

8月



TICAD閣僚会合
(8月24日)

9月



BIE事務局長視察
(8月29・30日)

10月



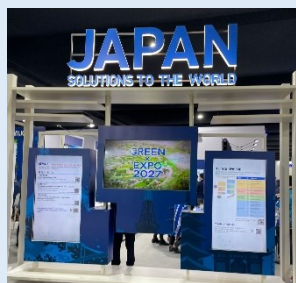
駐日アフリカ外交団
(ADC)月次会合
(9月9日)

11月



BIE総会@フランス
(11月25・26日)

12月



COP29@アゼルバイジャン
(12月18日)

1月



BIE事務局長訪問@国交省
(1月17日)

2月



駐日大使館向け説明会・現地視察
(2月27日、3月4日、3月13日)

3月



BIE事務局長訪問@国交省
(4月9日)

4月



カタール国との調印式
(5月13日)

5月

機運醸成の取組

○ 機運醸成のため、以下のような取組を実施。



出典：(公社)2027年国際園芸博覧会協会

ブルージング リング アクション
■ Blossoming RING Action



■ 特別仕様ナンバープレート



■ シンポジウム等の開催



■ ラッピングバス（横浜市交通局、相鉄）



■ 鉄道駅での駅名標・階段広告



■ 国営公園でのPR

花・緑・食・農、ネイチャーポジティブ、カーボンニュートラル等に関連するイベント等を「GREEN×EXPO 2027全国連携プログラム」として登録し、多様な主体の参画による施策を一層推進

- ✓ 花・緑・農・食、ネイチャーポジティブ、カーボンニュートラル等に関するイベント、体験プログラム、ツーリズム、シンポジウム、講演会、コンテスト等で、GREEN×EXPO 2027のサブテーマ(※)のいずれかに合致するもの
- ✓ 一般国民に参加の機会が提供されており、非営利のもの(有料・無料、参加人数制限等は問わない)
- ✓ 国、地方公共団体、独立行政法人、研究開発法人、一般社団・財団法人、地域団体、企業、特定非営利活動法人等が実施主体となるもの

※4つのサブテーマ

自然との調和

緑や農による共存

新産業の創出

連携による解決

第1次募集:令和7年1月～2月募集 88件登録

第2次募集:令和7年6月上旬頃開始予定
登録者発表日:令和7年7月下旬頃予定

※登録のメリット

- ・ 出展、協賛以外でのGREEN×EXPO2027への参加
- ・ 全国連携プログラム公式ロゴマークの使用
- ・ 国交省、農水省、園芸博覧会協会HP等への掲載

【全国連携プログラム公式ロゴマーク】



みどりをはぐくむ
明日のために



食と農で明日をつくる

※登録プログラム事例

